

水不足を解消するために

沖縄県 具志川中学校 三年 當眞 結愛

あなたは今、水不足だと感じていますか。私たち日本人は、あたり前のように蛇口からきれいな水がでて、その水で顔を洗ったり、飲んだり、お風呂でシャワーをあびたり、湯船にお湯をためて温まったりすることができません。

では、なぜ水不足と言われているのか。

水不足の主な原因は、人工の増加や産業の発展による「水の使用量の増加」、地球温暖化が引き起こす気候変動が「水の利用を非効率にしていること」、人間によって「水源が破壊・汚染されていること」です。現在、世界では約八十億人の人がいる中で、十人に三人にあたる約二十二億人もの人々が安全に管理された水を使用できません。また、世界気象機関は、二〇五〇年には世界で五〇億人の人々が水不足の状態に陥ると発表し、水不足は将来的な問題になっています。

世界平均と比べると年間平均雨量が約一・六倍にもおよぶ日本ですが、水不足ではないわけではありません。日本は、河川の多くが急勾配になっており、短時間で海に流れ出てしまうため、水の確保量は少ない現状があります。これまでに、一九三九年の琵琶湖大渇水、一九六四年の東京オリンピック渇水、一九六七年の長崎渇水、一九七三年の高松渇水、一九七八年の福岡渇水などの大規模な渇水が多数発生しています。また、平成六年渇水、別名一九九四年渇水は翌年にかけて、九州北部から関東地方までの地域で発生した全国的な渇水で、各地域で給水制限が出され、福岡県福岡市では、二九五日間にもおよぶ夜間断水が行われました。

四国地方や私たちが暮らしている沖縄県は、山が少なく、川が短い地形のため、利用できる水が不足しがちになってしまっています。実際、沖縄県では、令和五年、小雨によってダム貯水率は例年を大幅に下回り、過去十年間で最も低くなり、少しは回復しましたが、まだまだ低い状態

が続いています。

私は、このようなことから、水不足の深刻化を防ぐため、一番にできることは「節水」をすることだと考えます。例えば、シャワーの流す時間を必要最低限にすることで、一分短縮することで、約一二リットルの節水をすることができます。それを一〇〇人がやると、約一二〇リットル節水できることになります。ほかにも、手を洗うときはこまめに水を止める。シャワーで温水がでるまでの水は湯船にためて散水などに使う。洗濯の際、洗剤は適量を使用する。洗車の回数を減らすなど「節水」の方法はたくさんあります。

今、私たちは日本人は水不足をほとんど感じずに生活することができています。しかし、常に水不足の人々、きれいな水を使用することができない人がいます。その人たちに少しでもきれいな水を届けられるようにするため、また、未来に水を残すために、今、私ができることを考え、行動していきたいと思えます。